

トーマス・W・マイヤース (著)
板場英行, 石井慎一郎 (訳)

アナトミー・トレイン [DVD 付] 徒手運動療法のための筋筋膜経線 (第 2 版)

藤縄 理

(埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科リハビリテーション学専修)



『アナトミー・トレイン (原題 Anatomy Train—Myofascial Meridians for Manual and Movement Therapists)』は筋筋膜の構造を臨床的および解剖的知見からまとめ上げた書である。筋膜(fascia)は運動の力や張力を伝達するすべての結合組織性の構造物を指し、筋筋膜(myofascia)は筋組織(筋)とそれに付随する結合組織網(筋膜)と結束して分離不可能な性質のものを示している(本文より)。本書は筋筋膜の連続体を「アナトミー・トレイン」と名付けた 12 本の筋筋膜経線(myofascial meridian)の体系として述べている。著者の Thomas W. Myers は米国の免許をもつマッサージセラピストで、マッサージとボディーワークセラピストの認定を受けている。彼は、Ida Rolf 博士が体系付けた筋筋膜に対する徒手療法である Rolf 法の認定療法士であり、長年にわたって臨床と教育に携わっている。

従来の解剖学は、人体を細分化し、骨格系、筋系、神経系、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系、感覚器系などに分けている。一般的な解剖学の教育は人体の構造を学習するのに、各系について部分から全体を学ぶように行われている。その過程で「全身の複合体」である筋膜系は教育されていない。本書は筋骨格系を骨格とそれを結び付けて支えるゴム紐のような張力材からなる、テンセグリティ(緊張 tension と統合 integrity を合わせた造語)構造としてとらえている。骨格をはじめとするあらゆる臓器を張力材として結び付けているものが、全身に連続して分布している

筋筋膜であり、12 の筋筋膜経線(アナトミー・トレイン)からなる。各トレインは姿勢機能と運動機能に関連しており、本書ではそれらの異常を評価し治療する方法がトレインごとに具体的に述べられている。さらに、「運行中のアナトミー・トレイン」として姿勢や動作の分析方法を紹介し、「構造分析」として、全体的姿勢評価法について述べられている。付録の DVD には「アナトミー・トレイン」の概念、解剖により剖出した各トレインとその説明、姿勢機能と運動機能の評価法と治療手技についての動画と静止画が収載されており、書籍のページには DVD 参照マークが示されている。

理学療法士は運動機能を評価し、その機能異常や障害の原因を見出し、治療したり自己治療法などを指導したりする専門職である。その臨床推論過程では、骨関節系、筋筋膜系、神経系などのように系別に分析し、それらの機能異常や障害を分析し、統合していくというアプローチをとっている。しかし、筋筋膜の徒手療法を研鑽しているセラピストを除けば、連続体としての筋筋膜の機能とその異常という考え方はしていなかったように思う。本書は神経筋骨格系機能異常の評価治療において、新たな発展の可能性を提示している。

●A4・332 頁・4 色刷

定価 6,825 円(本体 6,500 円+税 5%)

2012 年 医学書院